

議事1 資料1①

平成28年度第2回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議 議事要旨

《議事1 前回合同会議の検討経過概要等について》

- ・委員からの意見は特になし。修正点などは事務局に連絡し、反映。

《議事2 第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画について》

- ・平成27年度捕獲数のオスメス別の統計については、最終的な策定までには載せこむ。
- ・9000頭まで減らしていくうえでの年次計画については、毎年シミュレーションを行いながら検証する。
- ・屋久島島内でどのくらいまで減らすのかということに関しては、議論が必要。

《議事3 ヤクシカの現状について》

(1) 植生調査結果について

- ・植生保護柵の内外調査では被度を確認する必要がある。変化は、個体数より写真の方がわかりやすい。
- ・植生保護柵外では小さいものしかなく、絶滅危惧種や嗜好植物が減少している傾向にある。
- ・希少種モニタリング結果の種数の記載については「今回調査では何種確認」という記載の方がよい。

(2) 生息状況・捕獲状況

- ・捕獲害獣駆除の数が昨年度にくらべて顕著に減ってきている。
- ・生息密度については、少なくとも東部など標高が低いところでは密度が減ってきている。
- ・糞塊調査の調査期間が長く、できれば同じ週のなかの10日間程度で調査を実施するべき。また、糞粒法でも糞塊法でも調査従事者のレベルにムラが出ないように留意が必要。
- ・糞塊法はシカの密度の経年的な変化を評価するために調査しており、糞粒法は調査するラインやコドラートの置き方が年によって変わること、経年変化を追跡することが難しい。

《議事4 平成28年度の取組について》

(1) 西部での捕獲手法の検討

- ・西部の囲い罾の柵は25m×25mのように大きくするか、小さいものを分散させるのがよいかの検討が必要。
- ・西部での捕獲に向けていろいろな検証が必要だが、囲い罾の誘引試験の結果は誘引狙撃などの方にもデータが引用できる可能性がある。

(2) シャープシューティングの検討

- ・シャープシューティングで最も大事なものは、段階的な達成目標の設定であり、第一目標を評価するには何頭捕ったかではなく、何頭減らせたかが評価のポイント。評価は非常に重要。
- ・達成目標は高密度のシカの解消。車からの誘引狙撃でも減らない、誘引されない等の状況であれば部分的にはくくり罠、忍び猟など他の手法を組み合わせることも必要。すべては達成目標のためにあるのでもう少しランドデザインの進め方の検討が必要。
- ・チーム制は、関係する人たちがフラットに置かれているということとやるべき仕事を分業化してそれぞれに割り振って理解を共有したうえでこれを守ること。実施体制図では、コーディネーターから環境省、屋久島町、捕獲業者まで囲う双方向の矢印とすべき。

《議事 5 今後のヤクシカ対策について》

(1) 遺伝的多様性に配慮したヤクシカ管理計画

- ・遺伝的多様性に配慮したヤクシカ管理計画についての提案。島内の地域差を考慮したうえで管理することが必要。
- ・遺伝的多様性の地域間の頻度の違いから、個体群の移動や個体数推定ができる。正確な把握には捕獲を要するため、生きた個体を5個体程度、各地域で捕獲できればよい。
- ・ヤクシカは、地域ごとの環境に適応して分化している可能性があり、このような遺伝的多様性の保全に配慮する必要がある。
- ・メスが移動していないということも、屋久島の地域ごとの個体群管理においては重要。

(2) 西部地域での捕獲手法の検討

- ・密度操作実験という提案については、考えていかなければならない。
- ・西部地域では、データも蓄積されヤクシカによる自然生態系への影響がはっきりわかってきている。
- ・西部については固まった検討の場を作り、WG 委員も含む研究者も含め議論していく必要がある。
- ・合意形成のうえでは、西部の生態系をどうするかという再生の目標設定が重要。
- ・西部地域は世界遺産の運用において、生態系の管理上重要な地域。
- ・研究者にとっては貴重なフィールドであり、観光資源としても貴重である。なぜシカを捕獲しなければならないのかという合意形成が重要。
- ・MAB 計画の作成における西部地域の位置づけの中で、どのように人と野生生物の持続可能な社会を作っていくのかを示すことが、非常に重要。
- ・究極目標はシカの数を目標にするのではなく生態系の管理。シカの個体数管理はその手段の一つ。

《議事 6 その他》

- ・テレメトリのデータはできるだけオープンな形でだれでも利用できる形で蓄積してほしい。また、会議で出てきた問題点を含めてGPSの捕獲データをとっていくことが重要。
- ・選択的な捕獲など、あえて意識的に警戒心を上げないような捕獲法など今までの方法とは違った捕獲手法を考えることが重要。